

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2000

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1088 2010年11月号

第6回滑床山植生回復検討会を開催



検討会(現地で説明するふれあいセンター所長)

一〇月二〇日、肌寒い天気の中、県、市町、環境省等の関係機関、有識者等の出席を得て、「第六回滑床山植生回復検討会」を開催しました。

まず最初に、昨年度にシカ防護ネット柵を設置した黒尊山国有林一林班で意見交換をしました。ここは植生が消失して裸地化し、土壌の流出が見られるため、昨年度末に一部試験的にムシロ伏せ工を実施した箇所ですが、現在では試験地下側のイワヒメワラビが旺盛に成長しています。参加者からは「周囲の枯れ木などを活用して土壌の流出防止措置を実施してはどうか」の意見が出されました。

次に、平成一九年三月、滑床山山頂(通称「三本杭」)及びその近くの通称「たるみ」で、シカ防護ネット柵内に移植したミヤコザサの生育状況等を確認しました。

山頂では、森林総合研究所四国支所の奥村野生動物害担当チーム長から、モニタリング調査を基に、「移植したササは、今年急激に成長し、昨年平均一五cmだったササが2倍の高さまで伸び、地下茎の発達が広がった」との説明と、一方、ネット外では食害が進み、ニホンジカが食べないアセビが増えるなど生態系に影響が出ているとの報告がありました。

出席者からは、「雨水の流れを止めるのには、枯木などを利用することは効果があると考える」「シカ被害対策として、シカ防護ネット柵の設置だけでは限界があり、頭数調整が必要と考える」等、多くの意見が出されました。

提言された内容については、今後の取組としてさらに検討をしていくこととしました。

〈ふれあいセンター〉



INTERNATIONAL YEAR OF FORESTS 2011

2011年は国際森林年です

「四国山の日
inえひめ2010」
開催
〈指導普及課〉


一〇月一六日、一七日の両日、愛媛県上浮穴郡久万高原町で、四国の森づくり実行委員会、四国の森づくりえひめ森林ボランティア連絡協議会主催による、「四国山の日 in えひめ 2010」が「四国の森づくりで未来の命を吹き込もうそして感じ伝える大地の鼓動」をテーマに開催されました。

このイベントは、森林の持つ多面的機能を發揮させるため、森林整備、木材利用や森林環境教育活動を地域住民やボランティア、関係機関等との連携・協力して取り組むこととして、平成一六年度に四国四県と四国森林管理局による「四国の森づくりに関する共同宣言」に基づき実施されています。

七回目の今年は、久万高原町において四〇回の開催実績のある「久万林業祭り」に併せ開催しました。

初日は、「四国山の日賞」及び「森林の俳句コンテスト」の表彰式及び伝達式を行い、続いて、緑の少年隊、地元上浮穴高校、大学、企業そして四国山の日賞受賞の各県代表による森づくり活動報告を受け、最後に久万高原町出身の梶川二郎氏の「久万林業と自分史の中の林業経営」と題した講演で一日目は終了しました。

二日目は、「安全技术技能コース」「久万林業祭りコース」「久万林業見学コース」の三分科会に分け、久万林業地を見学しました。


両日とも天候に恵まれ、林研グループや森づくりのボランティア団体等が交流を深め、二日間を終えることが出来ました。



宮原局長による「四国山の日賞」の表彰



分科会見学

第六回森林の
俳句コンテスト
入賞者決まる
〈総務課〉


今年も六月二四日から九月一〇日まで小中学生を対象に、森林・林業に関する俳

句を募集したところ四国四県等から一一二校、二、二六三句と多数の応募があり、選者二名による厳正な審査の結果、入賞者が決まり、一〇月一六日の「四国山の日 in えひめ 2010」の会場で表彰されました。

紙面の都合上、入賞作品の内、四国森林管理局長賞、最優秀賞、優秀賞を紹介しませう。

紙面の都合上、入賞作品の内、四国森林管理局長賞、最優秀賞、優秀賞を紹介しませう。

紙面の都合上、入賞作品の内、四国森林管理局長賞、最優秀賞、優秀賞を紹介しませう。

紙面の都合上、入賞作品の内、四国森林管理局長賞、最優秀賞、優秀賞を紹介しませう。

紙面の都合上、入賞作品の内、四国森林管理局長賞、最優秀賞、優秀賞を紹介しませう。

紙面の都合上、入賞作品の内、四国森林管理局長賞、最優秀賞、優秀賞を紹介しませう。

紙面の都合上、入賞作品の内、四国森林管理局長賞、最優秀賞、優秀賞を紹介しませう。

紙面の都合上、入賞作品の内、四国森林管理局長賞、最優秀賞、優秀賞を紹介しませう。

紙面の都合上、入賞作品の内、四国森林管理局長賞、最優秀賞、優秀賞を紹介しませう。

紙面の都合上、入賞作品の内、四国森林管理局長賞、最優秀賞、優秀賞を紹介しませう。

紙面の都合上、入賞作品の内、四国森林管理局長賞、最優秀賞、優秀賞を紹介しませう。

紙面の都合上、入賞作品の内、四国森林管理局長賞、最優秀賞、優秀賞を紹介しませう。

紙面の都合上、入賞作品の内、四国森林管理局長賞、最優秀賞、優秀賞を紹介しませう。

五年 多田朔也

「さわやかやリフトで登るつるぎ山」
優秀賞
愛媛県西予市立高川小学校
五年 木下芽生

「手に乗せてちくちくするよくりのいが」
優秀賞
高知県大豊町立大杉小学校
六年 吉川佑樹

「親イノシシウリンボ五ひき連れていた」
四国森林管理局長賞
高知県大豊町立大豊町中学
三年 関口 凜

「ブナの森耳を澄ませば水の音」
最優秀賞
香川県高松市立屋島東小学
二年 谷本玖凜

「亡き祖父のもの木実がなる八年目」
最優秀賞
高知県大豊町立大豊町中学
一年 都築泰成

「雲海に朝日が照らす山の島」



森林の俳句コンテスト各賞受賞者

優秀賞

愛媛県今治市立大西中学校

二年 別府信彦

「うつそうと茂るふもとの休憩所」

優秀賞

愛媛県松山市立湯山中学校

三年 林 章史

「木に登り夕日を見ながら秋を待つ」

優秀賞

高知県本山町土佐町中学校

組合立嶺北中学校

三年 森 咲百合

「葉に垂る赤い雫は天道虫」



高知市帯屋町での街頭募金

緑の募金」秋の募金活動が、
「緑の募金でふせごう地球
温暖化」をスローガンのもと、
(社)高知県森と緑の会主催
により、一〇月九日高知市
の中央公園及び帯屋町筋で
行われました。
募金活動では、街行く人
に「緑の募金」が高知県内
の森づくり活動などに使わ
れることで、良質で安定的
な水の供給や、安心・安全
な生活環境の保全に役立つ
ていることなどを訴え、募
金協力を呼びかけました。

「秋の緑の街頭募金」
「私も小遣いを募金します」
〈指導普及課〉

一〇月四日、高知県安芸郡馬路村千本山保護林において、高知県立高知農業高等学校森林総合科の一年生二〇名を対象にした森林環境教育を実施しました。今年度は、既に六月に二、三年生を対象にした現場実習等を行なっています。
登山口の、千年橋を渡る
と「森の巨人たち百選」に指定されている『千本山橋の大杉』(幹周六八〇cm、樹高五四m)があります。橋の大杉の大きさを体験するため、幹周六八〇cmのロープの輪の中に森林総合科の生徒が一八名入る事ができることを示すと、全員ビックリしていました。
また、高度計を使用して地図上で標高を確認したり、スギの植栽試験地にて、ニホンジカによる食害状況を

高校生現場実習
「農業高校生を対象にした森林環境教育を実施」
〈指導普及課・安芸森林管理署〉



デジタル測高器で計測

見学するなど、登山口から親子スギまでの間に、千本山保護林内のヤナセスギの特徴、森林の機能などについて学びました。
更に、親子スギ周辺でデジタル測高器を使用してヤナセスギの樹高計測を行い樹木の炭素現存量を計算しました。そして森林が地球温暖化の防止に役立っているという説明を聞き感じていました。
今回の森林環境教育を終え、森林に対する関心を高め、国有林の業務や、森林の持つ働きの重要性について理解できたようでした。

家庭ではキャンプなどでのバーベキュー以外にはあまり使われなくなった炭ですが、脱臭剤や土壌改良などの環境改善のために使われていることも学びました。
次に炭焼き体験です。児童たちは事前に自分が炭にしてみたいものを持ち寄り、モミ殻と一緒に空き缶に詰めました。マツボックリ、ドングリをはじめ、ひょう

焼きミカンの
出来上がり
「炭焼き体験」
「ふれあいセンター」

各地のたより

たん、トマト、ピーマン、ミカンなど様々です。それを火の中に入れて約一時間、中の材料の水分が無くなり、炭になるのを待ちます。やがて缶から出る煙の色が変わり、煙が出なくなったら出来上がりです。

うまく炭になっているかどうかドキドキしながら缶の蓋を開けます。

マツボックリやひょうたんはきれいな炭になりました。しかし、短い時間で作るため、水分の多い野菜などを入れた児童は、「焼きミカンになった」「トマトはぶよぶよ」になってしまいました。

それでも一緒に入れたダングリなどがそのままの形で炭になっているのに驚いていました。

失敗もありましたが、いろいろなもので炭ができることや様々な用途に利用されていることを学び、森林

や自然について興味や関心を持つてくれることと思います。



ひょうたんの炭ができたよ

**手作りブランコに
大喜び
(八面山森林体験学習)
〈ふれあいセンター〉**

キオンの花が咲きアサギマダラが羽を休め、秋の装いを見せている八面山に、一〇月四日には、愛媛県松野町立松野西小学校四年生二八名、一〇月一四日には、高知県四万十市立川崎小学校五年生一三名を迎え森林体験学習を行いました。準備運動の後、登山口を出発し、歩道沿いの樹木やニホンジカの食害などを学習しながら、約五〇分で八面山山頂(一、一六五メートル)に到着しました。

山頂では、遠くに見える三本杭(滑床山一、二六六メートル)が、土佐藩、宇和島藩、吉田藩との領地の境として杭を立てたことから「三本杭」と呼ばれるようになったことを話すと、児童達は驚いていました。

その後、近くのブナ林へ移動して、森林のもつ様々な働きについて、紙芝居で説明しました。「森林の働きについて、知ってますか？」の質問に、水を蓄える、山崩れを防ぐ、環境を守る等、活発に答えてくれました。

学習の後は、ブナの大木にロープを掛けた手作りブランコに「怖い」と言いながら何度も挑戦していました。

児童達は、八面山登山や森林教室を通じて、森林の働きと大切さを学び、また、ブランコにより楽しさを体験し、忘れられない秋の思

い出となったことでしょう。



怖く楽しいブランコ

**アイデア満載の
木の小物作り
〈徳島森林管理署〉**

一〇月一三日に徳島県三好市立名頃小学校において、名頃小学校児童二名と菅生小学校児童五名を対象に木工教室を行いました。当署では公募によって森林教室などを開催していますが、この木工教室は、後期のスタートとなるものです。材料は広葉樹の木片や種子を利用し、昆虫や鳥などを見本に各自、自由にアイ

デアを巡らせて製作にとりかかりました。

始めは見本どおりに作る児童がほとんどでしたが、すぐに見本にはない物を全員が作り始めました。お互いに完成したのを見せ合い、そこからまた新しいアイデアを貰って次のものを作っていました。

最後に、多くの児童から「楽しかったのでまた作ってみたい」という感想をもらいました。職員の方からも「二時間が短く感じた。

また、児童にとっても外部から来た人と接するいい経験になった。」という感謝の言葉をいただきました。

当署では、地域や学校などの要望に応え、今後とも森林環境教育を実施していきたいと考えています。





オリジナルの木工作品作製中

県、NPOと
シカ対策を実施
〈徳島森林管理署〉

一〇月一日、徳島県、県下のNPO団体等と協力して、三嶺（一、八九三メートル）東斜面のダケモミの丘と呼ばれる国有林で、樹木ガードを設置しました。

三嶺周辺でも、南斜面のカヤハゲと同様にニホンジカの増加が問題となっており、山頂付近のミヤマクマザサ及びコメツツジ群落（天然記念物）や麓のウラジロモミ林などが深刻な被害を受けています。すでに

林床のスズタケは、ほとんど枯死している状況です。

今年五月には、行政や自然保護団体等からなる剣山ニホンジカ被害対策協議会が組織され、シカ対策を連携しながら推進することとしており、その一環として

山頂付近の民有林及び国有林に県がシカ防護ネット柵を、また、当署においても、昨年引き続きダケモミ付近のモミ林周辺にシカ防護ネット柵を設置して

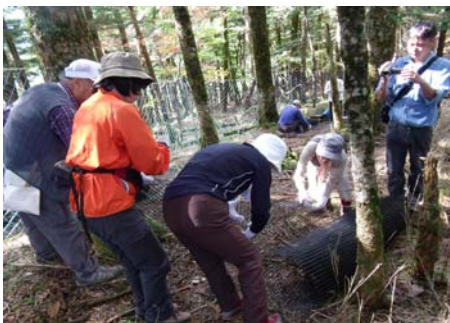
いますが、今回は、この間の尾根にボランティアの協力をいただいで樹木ガードを設置したものです。

作業には、徳島県自然環境課、NPO三嶺の自然を守る会、徳島県山岳連盟などから三七名の参加があり、三嶺林道駐車場で開会式を行った後、ダケモミの丘まで登り、登山道沿いのモミなどを三人一組で樹木ガードを巻いていきました。資材は、事前にシカ防護

柵と併せてヘリコプターで空輸し、準備をしていたものを利用しました。往復に時間を要するために短時間の作業でしたが、一二四本の樹木を保護することができました。

また、当日は快晴の祝日とあって、行き交う登山者にもシカ被害の深刻さと関係者の地道な取り組みの一端がわかってもらえたと思います。

当署では、今後とも県やNPOなどと連携して、シカ対策を実施していきたいと考えています。



樹木ガード設置

東祖谷直轄治山
推進協議会を開催
〈徳島森林管理署〉

一〇月二〇日、三好市東祖谷総合支所において、第三四回東祖谷民有林直轄治山事業推進協議会が開催されました。

これは、民有林を対象とする直轄治山事業の円滑な推進を図るために昭和五〇年から開催されているもので、当日は三好市、三好市

議会、三好市東祖谷総合支所、吉野川漁業組合のほか、地元から世話役、各地区実行委員の参加がありました。

会議は、三好市産業観光部長の開会の挨拶から始まり、続いて、当署長から治山事業を巡る最近の厳しい情勢を含めた挨拶を行った後、あらかじめ地元から提出されていた要望に対し、治山課及び祖谷川治山事業所から回答する形で進められました。

祖谷地区の治山事業及び



推進協議会

地すべり防止事業は、昭和二七年度から鋭意、実施されていますが、祖谷地区は地すべりや崩壊が多発する御荷鉾構造線沿いにあることから、いまだに地元住民には不安感があるようで、地元から多くの要望が寄せられました。当署は地域住民との対話を通じて円滑な事業を実施する考えであり、更に地元の協力をお願いして散会しました。

当署としては、民有林直轄治山事業の推進を通じて安全・安心の国土づくりに努めるとともに、今後とも地域の信頼や幅広い理解と協力を得るように努めるとしてまいります。